

精神科領域に携わる医療職に必要な視点・アプローチ方法 ～これからの地域ケアに求められているもの～

【2025年問題 今後の医療はどうなるのか？】

日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しています。65歳以上の人口は、現在3000万人を超えており（国民の約4人に1人）、2042年でピークを迎えその後も75歳以上の人口割合は増加し続ける事が予想されています。

このような状況の中、2025年問題をはじめとする医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれています。

【精神科医療の変化、求められる人材とは？】

これに加え、最近では「精神科領域におけるアウトリーチ」の必要性が高まってきています。全国に精神科を利用する方は390万人おられ、そのうち360万人は地域で生活されています。「入院医療中心から地域生活中心」をスローガンに、今後においては、高齢者や精神科ユーザー、そしてその家族のサポートまでを、包括的に住み慣れた自宅の場で治療することが求められています。

地域包括ケアシステムを運営するためには、地域で活躍する医療従事者の需要が高まってきています。地域にネットワークを持ち、良好な人間関係を作れ、そして利用者に対して質の高いアプローチができる人材が求められることになるでしょう。

【この研修で得られることは？治療効果をあげるには？】

この研修会では、これからの時代に求められている「**新しい治療技術の獲得**」と「**一歩踏み出す技術**」について学ぶことができます。今いる環境から一歩踏み出すことで、地域ネットワークを作って、チームで患者さんの支援にあたることができるため、治療効果もおのずとあがっていきます。対人援助職として人と関わる中では、コミュニケーション技術が必須になってきます。患者さんだけでなく家族とも良好な人間関係を築くことで、結果として治療効果があがる仕組みについても学ぶことができます。

《一步踏み出す技術》

かつてない少子高齢化社会に突入しようとする現代の日本において、医療従事者に求められている知識やスキルはどんどん多様性を増してきています。

保健医療福祉分野においては、厚生労働省・医療計画制度・4 疾病 5 事業に精神疾患が追加され久しいですが、地域で活躍する人材はまだまだ足りないのが現状です。

とりわけ、今後においては精神科領域におけるアウトリーチの必要性が高まってくるでしょう。なぜなら、精神疾患の①問題がみえにくい、②状態が変わりやすい、③支援が必要な人ほどサービスが行き届かない、という特徴から、本人だけでなく家族も疲弊し、どんどん社会から孤立してしまう傾向にあると言われています。そのため本人および家族のサポートを、住み慣れた自宅で行う必要があり、これからの地域共生社会では「我が事・丸ごと」の地域づくりが求められています。

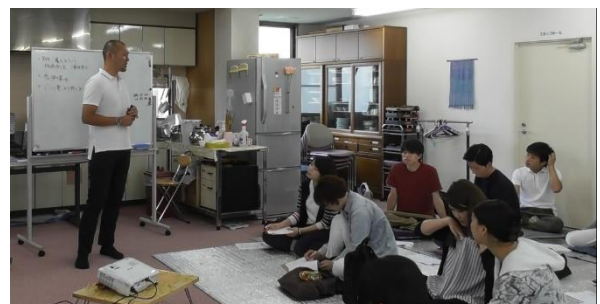
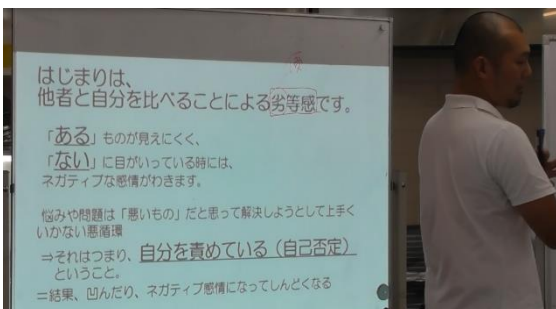
しかしながら、仕事や家庭での忙しい毎日に追われ、気づいたら一日が終わってしまったり、自分の時間がほとんどとれなかったり、日々なんとなく過ぎていく感覚になることはありませんか？

このような時代においては、どこへ向かうのか？の方向感覚を持ちながら、将来が不透明で不確実であるがゆえ、**未来に向かって一步踏み出す勇氣**を持ち**自分の頭で思考して行動できるスキル**が求められています。

この研修会では、今いる環境から一步踏み出して**様々な人と出会い**、自分が役に立ち、さらに**必要とされる人**になっていくコミュニケーション技術を学ぶことができます。いかに人がモチベーションを持って行動できるのか？という仕組みが分かれば、自分だけでなく担当する対象者にもアプローチすることができ、**自分の関わりが対象者の変化をもたらすきっかけ**となることもできるよう。

セミナーを受けられた方が感じられた内容は以下となります。

- ☑心身相互からの統合的評価、介入ができるようになった
- ☑自分の活かした方がわかった
- ☑自分が気づいていなかったことに気づけた など



《新しい治療技術の獲得》

精神疾患は心の病と言われていますが、様々な研究により症状を引き起こす神経伝達物質などが特定され始めています。このことから心の病とはいえ、アレルギーや脳梗塞などと同様で**神経系・ホルモン系・免疫系**の異常によって起こるものだと理解できるかと思います。従来の支援的関わりや環境調整（ストレスコーピング）以外にも我々がアプローチできることがあるということです。

昨今海外から輸入されている最新の治療法では、トラウマへのアプローチ方法として視覚から脳へ働きかけることや身体感覚への刺激を用いての治療方法、経絡を用いての不定愁訴の改善などがあります。

つまり徒手のアプローチが精神疾患の症状・原因に変化を出すことができ、その裏側には身体システム**【ホメオスタシス】**を正常化に導くことが有用であるということです。

そのための実際の徒手のアプローチ方法をお伝えさせていただきます。当日の内容の一部はセロトニンの賦活、神経系のリラクゼーション、全身へ影響をおよぼす骨格調整などとなります。残りはお楽しみにしてください。

実際に使用し、効果が得られたことお伝えさせていただきます。以下は効果の一例です。

- ☑眠れない方が眠れるようになる
- ☑意欲低下していたが、気づけば活動的になっている
- ☑緊張が身体からとれる
- ☑自分がおこなうことに自信が持てた など

=====

セミナー参加者の声と様子（一部）：

- ・すごく面白かったです。自身でも実際効果を感じられて良かった
(20代：作業療法士)
- ・セミナー後に実践してみたら、患者さんが眠れるようになり驚きました
(40代：看護師)
- ・こんな考え方をしたことがなかったので新しく知れて良かった
(50代：看護師)



日 時：平成 30 年 9 月 15 日（土）、平成 30 年 9 月 17 日（月祝）
10 時 00 分～17 時 00 分

（開場は 9 時 30 分、閉場は 17 時 30 分）

※内容はそれぞれ違います。両日もしくは各日を選んで参加ください。

1 日目は主に<信頼関係・コミュニケーション技術>
<骨格調整・セロトニンの賦活>

2 日目は主に<人が行動する仕組み・1 歩踏み出す技術>
<神経リラクゼーション>

場 所：医療法人 三家クリニック（大阪府寝屋川市八坂町 29-1）

<https://www.mitsuya-clinic.jp/access>

対 象：精神科病院・クリニック・DC 勤務の作業療法士・看護師・医療従事者
精神科訪問看護に携わる作業療法士・看護師・医療従事者
組織づくりにおける責任者
企業の人事・人材開発部門担当者・責任者
今の自分（や社会）に限界や疑問を感じる全ての方々
（定員：各日先着 20 名まで）

参加費：おひとり様 1 日目 ¥8,640-（¥7,000- / 1 人）
2 日目 ¥9,720-（¥8,000- / 1 人）
両 日 ¥12,960-（¥11,000- / 1 人）
2 人ペアでのお申込み参加費用は（ ）内金額となります。

◆◆当日、会場受付にてお支払いください

※定員があり、キャンセルされる場合はキャンセル料が発生致します。
やむを得ない理由の場合はその限りではございません。

申し込み締め切り：平成 30 年 9 月 6 日（木）まで

講 師：関晋太郎（作業療法士）、岡谷明子（看護師）

■■■お申込み方法■■■ メールにてお申込みください。

MBIM 研究会

✉ mbim.society@gmail.com

題名：MBIM 研究会 9 月セミナーとし、本文に

①氏名 ②所属 ③職種 ④経験年数 ⑤研修会で得たいこと
⑥当日連絡のつく電話番号とメールアドレス ⑦ペアの有無とペアの氏名 ⑧
参加希望日

を記載して送信してください。

※参加される方がそれぞれで送信してください。